

ひろは

お茶の水女子大学 社会人プログラム
「変革期の乳幼児教育・保育を考える」
平成23年度 後期10月開講

お茶大では、現職保育者はじめ保育に関心のある一般の皆様にも、ユニークな保育・幼児教育学カリキュラムを夜間(18:20～19:50)に開講しています(科目等履修生登録になります)。

【10月からの後期科目】

「子どもと家族」(月・加藤邦子先生)

「乳幼児教育・保育政策論」(水・逆井直紀先生)

「現代保育課題研究Ⅱ」(木・浜口順子)

「比較保育実践研究」(集中2月・ドイツ在住ベルガー有希子先生)など。詳しくは、

<http://www.cf.ocha.ac.jp/nyuyoji/life.html>

(電話03-5978-5949)まで。

映画紹介

『森聞き morikiki』(2010年 日本 125分)

長編ドキュメンタリー映画

監督：柴田昌平

製作・配給：プロダクション・エイシア

助成：文化芸術振興費補助金

(2011春より全国順次公開中)

この映画は、「森の名人」と呼ばれる人たちの人生とワザを聞き書きした高校生4人を追った作品です。日本のごく一般的な若者たちが抱える生き難さや未来への不安を、日本が近代化の中でもっとも打ち捨ててきた山村生活の老人たちとの出会いを通して、乗り越えようとしていきます。

日本の中のさまざまな断絶 — 都市と農村、伝統的な暮らしと現代化された暮らし、世代と世代 — そうした断絶を埋め合わせることの可能性を、詩的なスケッチで見つめました。(パンフレットより)

公式HP <http://www.asia-documentary.com/morikiki/>

本の紹介

『世代間交流学の創造 — 無縁社会から多世代間交流型社会実現のために』

草野篤子(編集委員長)・柿沼幸雄・金田利子・藤原佳典・間野百子 編著 あけび書房(2010)

「今なぜ世代間交流か。(中略)ここで考えたいことにもう一つの視点がある。それは世代間交流という概念の導入により、世論を構成している理論、パラダイムの転換に繋がるということである。」(序章より)

画期的労作、と帯にある。そうなのだろう。本を手にした時、人と人との「つながり」について、諸領域からアプローチし、交流「学」として学際的に考えているという、意気の高さを感じた。(菊地)

DVD紹介

『パリ20区、僕たちのクラス』(2008)

監督/脚本：ローラン・カンテ

脚本：フランソワ・ペゴドー/ロバン・カンビヨ

出演：フランソワ・ペゴドー、ラシェル・レグリ

紀伊國屋書店(2011)

さまざまな背景をもつ出身もさまざまな中学生たちと、決して完全無欠などではない教師とが、フランス語というツールを共通の(そしてあるいは唯一に近い?)ベースとしながら、未熟さや不完全さを露呈し合い、時に深く傷つけ合い、ひどく不器用に、それでもどこか希望的に、今を共に生きようとする姿を描く。ある男子生徒の、生まれ故郷の言葉しか理解しない母親が、息子の退学を言い渡される席で最後まで顔を高く上げたまま、息子への信頼とプライドを捨てない姿が忘れられない。(菊地)